

質問コーナー
その7



Q1. 神さまって、本当にいるのですか。

A1. いますよ、私たちは神さまに生かされているのですから。聖書を読んでいくうちに、きっとわかると思いますよ。

Q2. 教会に行っている人は、どこが違うのですか。

A2. 違いといえば、自分が罪深く、弱い人間だということに気づいた人たちということでしょうか。

Q3. 聖書を読んでも、何の事だか意味がわかりません。

A3. 聖書は神さまからの手紙です。まずは、日曜礼拝で牧師の話しに耳を傾けてください。また、初心者の方には、一番基本的な事をお話する「聖書の学び会」もあります。無料で都合の良い時間にさせていただきますから、遠慮なく申し込んでください。このように、学び会や日曜礼拝で神さまのお話しを聞いておきますと、しだいに神さまの事や自分の事などがよくわかるようになり、神さまが聖書を通して、どのように語っておられるのかがわかるようになります。そこから、神さまと一緒に生活が始まります。

神さまとの出会い その7

71歳 女性（三木市）

私は小学校低学年の頃に、当時教会に通っていた母に連れられて、妹たちと一緒に日曜学校に行っていました。初代牧師の山本信二先生から聖書のお話しを楽しく聞かせてもらったり、讃美歌を歌ったりしました。今でも覚えているのは、「受けるよりは、与える方がさいわいである。」という聖書のみことばと、「人間の心の扉は、内側からしか開けることができない。」という言葉です。

そして中学生になり、14歳のクリスマスに美囊川で洗礼を受けました。不思議と寒さは少しも感じませんでした。川から上がって来た時の、たき火の暖かさは今でも思い出します。

やがて高校生になると、次第に自分中心の生活になって行き、神さまからも教会からも離れて行きました。そして卒業、就職、結婚。結婚してからの神戸での生活は年子で生れた三人の子育てに右往左往する毎日でした。

そんな時、四人姉妹の長女である私に、実家の両親の家の近くに引っ越しをする話しが持ち上がりました。主人も理解してくれて11年ぶりに生れ育った三木市に帰って来ました。子どもたちが小学4年、2年、1年の時でした。

しかし、平穏な日々は長くは続かず、中学生になった子どもたちは反抗期のさまざまな姿を見せてくれ、悩む毎日でした。どうしていいかわからず、気がつけば夜中に涙ながらに祈っていました。神さまは子どもたちを通して、「わたしの所に戻って来なさい。」と仰ってくださいました。さらに、私が神さまと教会から離れている間、母はどれほど涙の祈りの時を過ごしてくれていたかに気づくことができました。

神さまは、愛するがゆえに私を訓練してくださいました。苦しかった事、悲しかった事、病気になった事、うれしかった事も・・・そのすべてが神さまの愛から出ている事であると心から思えるのです。

まだまだ愛の足りない私ですが、一日一日生かされている事に感謝して、与えられた「でこぼこ道」を楽しみながら、母と主人と三人で歩いて行きたいと思っています。

小学6年生
までの
遊び場所

♪ おいしく♪ たのしく♪

キッズ・チャペル

毎月第2水曜日 ごご 3:30~5:00



シャキーン



宿題



参加無料
だよ

おやつも
あるよ!